

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階

第126版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤクルーブログも
毎日元気に配信中!

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神家総本家 聴福庵



地域性がなくなり、公園にも子どもたちの姿がなくなってきた現代の日本で、子どもたちの「生きる力」を育む一つの切り口としての仮想世界が注目されています。

ゲームは悪？

にできたか、できなかったのはなぜか、次回への改善点などを親や先生やクラスメイトに自分の言葉で共有することになっており、「ただプレイをする」というゲーム教室のイメージとはかけ離れたものでした。

実際、家では決まりを守れずダラダラとゲームをして怒られている息子が、時間になったら手を止め、天高くピシッと手を挙げ、初対面の人の中で言葉を選びながら発言している姿は別人かと思うほど…。好きなことに対して本気で楽しむ姿が見られました。

ゲームはやらせたくないと言っ声はたくさん聞きますし、私もそう思っていた一人です。しかし、今はゲームをしない子を見つけた方が難しいくらいなのが現実。せっかくならば、ゲームを通してルールを学び、自分の考えに見通しを立てたり、みんなで協力して何かを達成する、という



「競争」ではなく「協働」や「協力」の場づくり、「プログラミング入門」として活用され続けているゲーム「マインクラフト」



アジアオリンピックではeスポーツがメダル種目になりましたね!

考えにシフトチェンジするのでもアリなのかもしれません。見学した教室でも普段は一つのものを作るクラスメイト全員で協力して作っているそうです。来年からは小学校でもプログラミング教育が必修化となり、「本当に必要?」「誰がどうやって教える?」など、大人たちはモヤモヤしていると思います。知識を教えることだけが教育ではなく、扱うものは何であれそこからどう導いていくのが大切で、それは関わる大人の見守り方次第なのだと感じます。

先日お伺いさせて頂いた東京都にあります、光徳保育園様の会議で特徴的なことがありました。その会議は「理念から振り返る文化」「仲間同士から学ぶ文化」「理念を発信して皆に共有する文化」を作ることを目的としたプロジェクトです。その中で、プロジェクトメンバーがそれぞれ振り返りを行っていたのですが、その振り返りの言葉の中に何度も出てきた言葉があります。それは、『その人らしさ』という言葉でした。『○○さんらしくていいよね』『○○さんの得意なところだもんね』『難しくとらえずさげしまつて○○さんらしさが出ていないかも?』といった会話が会議中終始飛び交っていました。



すべての「らしさ」を尊重することは社会を作る大切な力だと感じます。

その人らしさ

なのですが、それもそのはず、園の理念が「生命尊重」「子どもの主体性・自分らしさを環境を通して見守る保育園」だからなんです。

子どもたちの「自分らしさ」を大切にすることでなく、生きとし生けるものの「らしさ」を大切に「生命尊重」の理念。それが園の文化として日常に現れていることが素敵でした。

自分らしさは、仲間との存在や声掛けによって見つけやすいのかもしれませんが。多様な関係性の中でお互いに助け合いながら、「らしさ」を伝えあっていきたいと思えます。

時代は変わってゆくもの。その時々に合わせて思考や伝え方、見守り方を、私達大人も勉強し続けていかなければいけないようです。

カグヤでは、それぞれが別々の場所にも、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

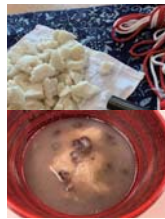
新たな年の節目に



新年もどうぞよろしくお願致します!!!

新しい年が始まりましたが、弊社では毎年、年末には大掃除を行い正月飾りをして歳神様をお迎えしたり、年始には初詣や鏡開き、お屠蘇やおしるこ、七草粥など頂いたり、この新たな年の節目にしかできないことを大切に組み立てて頂いています。会社でこんなことをしていると、「すごいね」「よく時間あるね」などと驚かれることもありですが、私たちが決して暇なわけではなく、先人が残してくれている「暮らし」の豊

かさを体験、体感しながら、子どもたちにも繋いでいけたらという思いのもと、優先して行っているのです。また最近「働き方改革」が叫ばれる中、弊社では心穏やかに健康で安心して働ける職場、社会の実現を目指し、一般的な業務改革による働き方改革ではなく、暮らしを通して五感や心、感性を働かせ、人生の充実感や幸福感を24時間味わいながら働く仕組みを模索し提案しているところです。「働き方を変えても暮らしは変わらないけど、暮らしを変えようと働き方が変わる」と、あるクルーも実験から話していました。今年も子どもたちが憧れる職場、働き方を更に追求していこうと思えます。



正月は歳神様をお迎えする行事！その歳神様の依り代となる鏡餅を開くことで、歳神様をお送りします。歳神様の力が宿った鏡餅をいただき、皆の無病息災を願います。

笑う門には福来る

カグヤでは毎朝「ツイてる体操」という名の体操を行っています。これは、朝から笑顔でご機嫌に一日をスタートできるように、「ありがとう」や「嬉しい・楽しい」などの元気になる言葉に合わせて体操をしているのです。

もともとは4年前に見学させて頂いた沖縄教育出版様の真似をして始めたものなのですが、試行錯誤を重ねるうちにやり方が変化し、クルーそれぞれが体操に合わせて「昨日は〇〇だったからツイてる！」「今日も〇〇でありがとう」など、近況報告

も兼ねたスタイルに変化しています。「そんなことあったの？ 詳しく聞かせて！」と話が発展することも多く、朝から心も体もほぐれて振動数の上がる時間となっています。ちょっと嫌なことがあった時も、気分が乗らない朝も、この場の力で笑顔に変えてしまおうというカグヤ流の朝礼。来社された際には是非一緒にご機嫌な朝を始めましょう。



みんなで円になることで自然と体調や機嫌も確認し合うことができます。

一期一会庵

縁起を担ぐ

昨年未から、歳神様の依り代として、木臼や蒸し器等で手作りして拵えた鏡餅を床の間に飾ってお祀りしています。

一昨年からお餅に焼酎を塗ったり、炭を敷いたり、山葵を置いたり工夫してからお餅にカビがつくことがなくなりました。御蔭で美味しく、御雑煮やかき揚げにして今年も会社のみんで共食し元気を養うことができます。

この鏡餅ですが、祀り方や飾り方に深い意味があることをよく知らない人が増えているといえます。

本来、すべてのものには「縁起」があり、その縁を積み重ねて繋いできて今があります。鏡餅の縁起は、三種の神器の一つの八咫鏡や、満月、蛇のとぐるや月や太陽、陰陽、心臓などをかたどったものと言われます。

白はむかしから神聖な色として好まれてきて、ハレの日には用いられてきました。そしてお餅の下に敷く裏白という葉は、ウラボシ科の常緑性の大形のシダで穂長ともい葉（羽片）がしだれるので「シダ」と呼ば

れます。これを「歯垂る」にあて、さらに「齢垂る」にかけて長寿の意味をもたせ、正月の注連飾りに用いられてきたそうです。また、裏が白いことから、「心の潔白さ」ということもあらわしているともいえます。

そしてゆずり葉は、新しい芽が出てくるまで古い葉が落ちないと言われそこから「親から子へ受け継ぐ」という意味になります。

また、お餅の頂上に乗る橙（だいたい）も、冬を越しても実が落ちないことから代々家が栄えていくという意味になるそうです。鏡餅にはこのように「縁起」が担がれています。

もともと日本人の先人たちは先にお祝いをしそのちに福が来るのを信じて待つという生き方をしてきました。

この縁起をかつぐという文化は、先に縁起を担いでそうなるように信じて待つという豊かな生き方が伝承されているように私は思います。常に「信」を先にして、それまでは苦勞を耐えてでも弥栄えるように振る舞っていくのです。



本年もよろしくお願いたします。

編集後記

今年（十二支）の始まりである子年（ねずみどし）。これは「神様の元へ一番に到着したから」という話があるのですが、実は十二支は自然の循環とも関連していると最近知りました。

子年であれば、冬の静止した時期に草木が地中から芽を出しはじめる様子を、「小さく元気に動き回るネズミ」に例えており、次の丑年（うしどし）であれば、これから大きな春の気が動き出すとする待機の時であり、その様子を、強い力を持つつつ、のんびりと構えるウシ」に例えているのだとか。どの動物の性質も自然の循環に紐づけると改めて大切だと感じられるように、私たちもお互いの存在を十分に活かし合って生きていきたいものです。（天河内盛友）

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます